

マンガとテレビアニメの関係についての一考察

——テレビアニメにおける原作媒体の割合の変遷——

甲南女子大学 増田のぞみ

1 目的

本報告の目的は、テレビアニメにおけるマンガ原作の割合の変遷を追うことによって、マンガとテレビアニメの関係について考察するものである。日本のテレビアニメは、1963年に放映が始まり、30分の番組を毎週放映するという連続テレビアニメのフォーマットを定着させることとなった「鉄腕アトム」がマンガ作品を原作としていたように、そのジャンルが誕生した当初から（そして現在まで）、マンガとの強い結びつきを持っているといわれる。しかしこれまで、それを実証的に示すデータは部分的なものにとどまっていた。

そこで本報告では、日本で放映されたテレビアニメにおいて、マンガが原作となる作品はどのくらいあるのか、アニメオリジナル作品はどの程度存在するのか、また他にはどのような種類の原作が多いのかを明らかにするために、初出の媒体について調査することとした。

2 方法

本調査では、1963年から2010年までに日本で放映された全テレビアニメについて、その原作となる媒体の割合の変遷を調べた。初出の媒体を、1=アニメ（=アニメオリジナル作品）、2=マンガ、3=ゲーム、4=小説、5=グッズ（玩具・キャラクターグッズ等）、6=その他、7=不明に分類し、その変遷を追った。

3 結果

対象期間全体を通して見ると、アニメオリジナル作品が30%、マンガ原作の作品が35%、ゲーム原作が7%、小説原作が10%、玩具やキャラクターグッズなどが元になる作品が2%、その他が10%、不明が6%となっており、マンガを原作とする作品がアニメオリジナル作品を超えて最も多いことがわかった。年代別にみると、原作となる媒体がマンガ以外にはほとんどみられなかった1960年代には全体の50%をマンガ原作が占めていた。続く1970年代には、アニメオリジナル作品や小説原作の作品が増えたことで割合を落としている。しかしその後、ゲームや玩具・キャラクターグッズといった原作となる媒体の種類が増えた1980年代から2000年代にかけても、マンガ原作は一貫して30%台を維持していることが明らかとなった。

4 結論

本調査の結果からは、マンガとテレビアニメの強い結びつきがデータとして示された。とくに1980年代以降、日本のテレビアニメにおいて、マンガは最も原作となる割合が高い媒体であり続けていることがわかった。テレビアニメがマンガと密接な結びつきを持つことは、テレビアニメの表現にも影響を与えているとされる（津堅 2006）。

当日は、マンガ表現とテレビアニメとの関わり、どのような雑誌から原作マンガが生まれているのかといった観点から、マンガとテレビアニメの関係を再考したい。

<文献>

津堅信之、2006、「漫画のアニメ化における諸様相——『鉄腕アトム』から『攻殻機動隊』、『マトリックス』まで』『アニメへの変容——原作とアニメの微妙な関係』（竹内オサム・小山昌宏編）、現代書館。